

文学史

三大和歌集の比較 授業プリント5

| 歌集 | 撰者 | 時代 | 特色 | 内容 | 歌風 |
|--------|--|--------|---------------------------------------|---|---|
| 万葉集 | おおもものやかもち 大伴家持ほか | 奈良時代 | ③（ 最古 ） ・現存する日本の歌集。 | ・作者が⑥（ 天皇 ）から、 ⑦（ 農民 ・ 兵士 ）などの庶民まで幅広い階層にわたる。 ・辺境警備の人の歌を⑧（ 防人歌 ）と言う。 | ・歌風は⑪（ 素朴 ）で⑫（ 力強い ） ・男性的 ⑬「 ますらをぶり 」五七調 |
| 古今和歌集 | ①（ 紀貫之 ） <small>きのつらゆき</small> | 平安時代初期 | ・日本で④（ 最初 ）の勅撰（天皇の勅命で作られた）和歌集。 | ・華美な平安貴族文化の傾向が強い。 ・構成が春・夏・秋・冬・⑨（ 恋 ）に分けられ、後の和歌集の手本となった。 | ・歌風は⑭（ 華やか ）で⑮（ 繊細 ） ・女性的 ⑯「 たをやめぶり 」七五調 |
| 新古今和歌集 | ②（ 藤原定家 ） <small>ふじわらのさだいえ</small> | 鎌倉時代 | ・⑤（ 八 ）番目の勅撰和歌集 | ・武士の出世、天皇の力の衰退などから、貴族が没落する。そのため、平安時代の憧れが強く、観念的で現実感がうすい。 ⑩（ 本歌取り ） | ・歌風は⑰（ 幽玄 ）で⑱（ 洗練 ） ・技巧的 七五調 |